

ネイチャー高知

発行 高知県自然観察指導員連絡会

事務局 高知市みづき1丁目310-8

三本 健二 方

題字 会長 澤良木 庄一

No. 12 1997 (平成9) 年11月17日発行

会員研修会のお知らせ

10月にオープンした「横倉山自然の森博物館」の見学を主とした研修会を下記のとおり開きます。

期日 12月14日(日)

日程 12:50 集合 博物館入口(エントランス)の前
13:00~14:00 安井敏夫学芸員(地質学)による館内説明
14:30~15:00 織田公園付近の見学(シルル紀の地層と横倉山花崗岩の不整合、寺野変成岩など。採集は一切行いません)

費用 入館料 大人500円(20人以上になれば400円)、小中学生200円

申込 不要

参考【越知町立横倉山自然の森博物館】

住所 高岡郡越知町越知丙737-12 ☎ 0889-26-1060

国道33号から、横倉山に登る林道を少し入った所

開館 午前9時~午後5時(最終入館は午後4時30分)

休館 月曜(祝日の場合は翌日)、12月29日~翌年1月3日

展示は次の8つのコーナーに分けられています。

- ①越知町・横倉山パノラマモデル
- ②アカガシ原生林の不思議
- ③横倉山のおいたち
- ④地球の歴史
- ⑤横倉山の地質と自然観察・体験コーナー
- ⑥歴史と伝説の横倉山
- ⑦牧野富太郎と横倉山
- ⑧横倉山でのフィールドワークとルール・マナー



四万十川周辺での「自然観察」紹介

澤 良 木 庄 一

台風19号が四万十川流域に大量の雨を運び（船戸の総雨量559ミリ）、近年にない大洪水となった。四万十川橋（赤鉄橋）下を流れ出る濁流、一見、橋の上から手の届きそうな程の水かさ（具同観測所9/17、1:10、平均水位8.76m、流量9996.47立米）でした。支流中筋川に沿った国道56号も冠水し、平行して走る土佐くろしお鉄道宿毛線の高架の鉄路が、一面の湖と化した水田の中に、延々と浮かんで見えていました。

この洪水による河川環境の攪乱は、全体として相当大きいものと思います。しかし、川というものは、長い間にこのようにして形作られてきたものであり、洪水の洗礼を受けることによって、はじめて清流の維持ができるというものです。

さて、四万十川での自然観察会は、地元の「指導員」を中心にして、四季折々に実施しています。このところ少し間が空いていますが。もちろん、年中多くの人々が四万十川をたずね、自然観察や調査、取材など、それぞれの分野で四万十川の自然に触れています。

「四万十川LOVERS」

“あなたからはじめよう”

川と自然を愛する気持ちを一層高めるための自然観察会、その企画とポイントをご紹介します。

1. 四万十川の水辺植生の観察

まず第一のポイントは、四万十川橋の上流側約1km、右岸の河川敷にひろがる入田のヤナギ林（長さ約1.5km、幅約200m）の付近です。このヤナギ林は、もともと四万十川の旧川岸にそって生育していた川辺群落が、昭和4年に着工した堤

防工事のため、群落の大部分が消滅していたものですが、数十年を経るうちに徐々に復元し、河原の堆積土の増加もあって、現在のようなヤナギ林となりました。

優占種ヨシノヤナギ、アカメヤナギ、エノキなどの亜高木層による単純な林相で、旧河岸付近では下層にメダケが多く、また若いヤナギ林では、オギ、ツルヨシなどの背の高い草本類や、ノイバラ、アカメガシワ、アキグミなどが混生する。水辺までの河原部分には、ヤナギタデの優占する群落や、ツルヨシ群落などが見られます。

ヤナギ林に接する竹林も生育旺盛で、オダケ、メダケを主とする群落がひろがる。タケ類にはほかにホテイチク、ヤダケなどが見られ、ヤナギ林の対岸、つまり左岸一帯には水辺までシイ・カシ林や、モウソウチク、ハチクなどの竹林があります。なお、この付近の水辺の岩場には、四万十川特産のトサシモツケの分布最下流限があり、その付近から500m下流に、同じくシチョウゲの分布限があります。

草本群落では、夏のヤナギタデ群落の緑と秋の紅葉現象、春のミゾコウジュ群落の淡い紫色、冬のイヌコウジュ群落の紅葉などが、四季の四万十川の水辺を飾ります。

河原は攪乱作用が著しく、特に草本群落などでは、毎年同じような景観を見ることは難しいものもあります。

河川敷や堤防上には、最近、外来の植物（帰化植物）の侵入も多く、一時的なものから長く定着するものまであります。キキョウソウやアカバナユウゲショウなどが、今年よく見られました。帰化植物の数は、数十種になると思いますが、一番多いのはキク科、ついでネ科やマメ科、アブラナ科、ゴマノハグサ科と続きます。原産地で多いのは北米、ついで欧州、南米をはじめ中国、地中海沿岸、アフリカ、熱帯アジアとつづき、ほぼ世界中に及びます。

2. トンボ自然公園と里山の植生観察

トンボ自然公園は面積およそ50ha、多数のトンボの生息が確認され、トンボ自然館には、世界のトンボの標本や関係の資料等が展示されています。また館内には、四万十川産の多数の魚類や水生生物等が飼育展示されています。

公園内は、四季折々にトンボが出現し、春のトンボ池では、タベサナエ、サラサヤンマ、ヨツボシトンボなどが見られます。また園内には、植栽のカキツバタやハナショウブも色を添え、ヒツジグサ、コウホネ、ヒシなどの水生植物群落も勢いよく池を覆う姿が見られます。

トンボ公園周辺の山は、標高30~50mの低山地でスギ・ヒノキ植林やシイ・カシ萌芽林の残る里山になっています。山道を一巡すると、ツブラジイ、シラカシ、シリフカガシ、ヤマモモなどの上層にヤブツバキ、ネズミモチ、ホソバタブ、ヤブニッケイなどの混生する里山の景観を楽しむことができます。林床にはシダ類、コケ類、変形菌類などもよく観察できます。

3. 四万十川汽水域の生物観察

四万十川の汽水域は、河口から約7kmほど溯る。この水域には広い範囲にわたって水生植物群落が分布しています。スジアオノリ、ヒトエグサ、コアマモなどです。

スジアオノリは川床の小石の上に着生し、11月から1月にかけて成長します。ヒトエグサ（アオサ）は、支流竹島川の河口で9月下旬から生育する緑藻のなかまで「アオサ養殖」として河口に張った網のうえで栽培しています。

アマモは、やや流れのゆるやかな砂泥域に生育する海産性の顕花植物（ヒルムシロ科）です。細いひも状の葉体で長さ50~100cmほど。アマモの生えている川床をアマモ場といい、四万十川の魚類の産卵や稚魚の保育場として、極めて大切な場所になっています。

竹島川と鍋島川の合流点付近では、テナガエビ、ミナミテナガエビ、シオマネキ、ハクセンシオマネキ、アシハラガニ、ヤマトオサガニ、ユビアカベンケイガニなどが、また魚類では、トビハゼ、ウロハゼ、シマイサキ、ボウなどが観察されています。

4. 中筋川流域の生物観察

四万十川の最下流域の支流中筋川（一級河川）は、かつては流域の大部分が低湿地帯で、多様な生物環境が保たれていました。昔からニホンカワウソの生息地域としても知られていましたが、洪水対策のための河川改修や堤防の構築が行われ、流域は乾田に生まれ変わりました。そのため生態系の変貌は免れませんが、なお、陸生、水生生物群集も豊かな場所であり、環境の保全に一層配慮する必要があります。

中筋川流域は、ツルの飛来地としてもよく知られ、また河口にできた野鳥公園では、多数の鳥類の生息、飛来があり、観察小屋も完備し、池の周囲の森づくりも進行していて、これから一層自然観察の好適地になるものと思います。

5. その他

石見寺山（410.9m）自然探索路は、シイ・カシ林やスギ・ヒノキ^植林を主とする植生に覆われ、野鳥の観察とともに絶好の学習環境をもっています。

香山寺山（221.5m）市民の森公園、中村市街地を見下ろす為松公園など、いづこも、かつての暖帯林豊かなころの名残りを留めていて、自然復元への「みちしるべ」として貴重な存在であると思います。

（☎787 中村市入田3205番地）

日本最古の化石—前号の訂正と補足

前号 p.3 に掲載した原稿に大変なミスがありました。訂正します。

本文下から2行目

放散虫という微生物 ⇒ コノドントという微化石

下から4行目 20年ほど前 ⇒ 17年前

「横倉山は日本最古の化石を産する」と言うのは間違っています。でも、横倉山の地層は、オルドビス紀よりも新しいシルル紀のものです。そのシルル紀の地層から、シルル紀のコノドントに混じって、一時代古いオルドビス紀のコノドントが発見されているのです。こうした化石は、誘導化石とか二次化石とか呼びます。その物語るところは、オルドビス紀にできた地層がシルル紀に侵食され、その中の化石が洗い出されてシルル紀の生物遺骸と一緒に再び地層に埋もれた、ということです。
(三本 健二)

受贈刊行物 最新号の紹介 参考になる行事がたくさん載っています!

■『ネイチャー・ウォッチング』 かがわ自然観察会

109号(97年10月): Monthly photo letter/定例会の案内/香川県主催第3回「身近な自然」の観察会案内(藤尾山自然環境保全地域)/屋島自然観察会スタッフ募集/会員研修「豊島」の案内/“マナビーキャンプ”報告(五色台国民休暇村キャンプ場)/大川山観察会の本番と下見について報告/おたよりコーナー/小山ポン・と帳記/フィールドだより/定例会報告/編集後記

■『自然観察』 自然観察指導員熊本県連絡会

71号(97年10月): 行事の案内…ユネスコ市民大学、阿蘇黄土観察会、クマタカをめぐる学習会、第8回自然保護セミナー(川と生き物たち)、都会の中の“鳴く虫”観察会、第3回くまもと自然保護講演会、九州自然協議会(九州の自然観察指導員連絡会組織の集まり)/「水生生物から川辺川と球磨川を見る」に参加して/「草刈り十字軍」上映会に参加して/八代大島干潟の観察会報告/植物版レッドリストに記載された熊本の植物たち/蝶の保護(1) オオルリシジミ/会員情報/Information/BOOK紹介/事務局雑感/事務局日誌/事務局よりお知らせ・お願い

■『山と野原』 山と野原の会(高知市一宮3027-17 小松康秀様方)

84号(97年10月): 会務報告/告知板/山のたより/新入会員の紹介/山行企画/山行記録/山行レポート: 厳しかった妙高山/山行つれづれ/山行歳時記: テイショウソウ